

第1回新城市福祉従事者支援施策推進会議録

日 時 令和7年1月15日（水）

午後6時～午後8時

場 所 災害対策本部室2

議題1 新城市福祉従事者支援施策推進会議の委員及び座長について

- ・（事務局）推進会議で推進会議のメンバーを決めるというのは、違和感があるためこの場はリニューアル会議とし、メンバー決定後、推進会議ということにさせていただきたい。
- ・今年度の推進会議のメンバーは、名簿のとおり（リニューアル会議から変更なし）とする。また、座長については、長坂委員とする。（石野委員より推薦あり）

議題2 20の施策の評価・検証について

- ・（事務局）優先レベル欄を設け事務局で高、中、低のランク付けをした。優先度の高い施策から実施すべきと考えており、「高」を付けたのは人材不足の解消につながると考え、「中高生向けの体験型イベント、講座を開催、福祉教育の充実」と、これまで「キラリしんしろ福祉賞」として実施し、励みになったと声が聞こえた「永年勤続表彰」の二つを「高」とした。今後実施する事業として、意見を聞きたい。
- ・事務局は健康福祉部として仕事をしているところから見て、優先度が高い、或いは実態から見て低いと判断したということか。また、財政的な事情も含めて実施することの難しさ、或いは実施できそう、やり続けていけそうということで順番つけたのか。⇒そのとおり。
- ・就職祝い金、資格・取得に対する助成、介護ロボットについてはとりあえず外して、永年勤続表彰については残し、認定福祉事業所制度については、実施に困難性があるということで当面外とする。
- ・お金は出せないけれども、全国にはこんな仕組みやこんな助成の制度があるという情報を出してもらえるといい。
- ・施策については、現在従事している人達にやりがいを持ってもらったり、力量を高めたりすることと、資格を持っていても眠っている人たちを掘り起こす働きかけをすることと、これから就職する子供たちの育成の3本柱だと思っている。
- ・人材の確保、人材の育成、人材の定着と置き換えることができると思う。魅力発信が中・高生、小中学生、中高生向けの施策で、事業所支援チームが表彰となると、育成はやはり研修になる。研修を実施する場合、どういう時間帯でやったらどういう人が集まるのか、受けた研修はどこにあり、どこに焦点当て、どんな研修をやったらいいのか難しい。
- ・講師が事業所に出向いて応援してもらったり実技をやってもらうというのは、今までやってないとする、やってみる価値はあるのではないかと思う。
- ・各事業所で研修はやっていると思う。今日1日反省すべきことがあったか、今日誰々がこういうふうになって私はこういうふうにしたとか、今日こんな問題が起きたので、こういうふうに対処

したとか、それはある意味研修であり、それはすでにやっていると思う。

- ・事業所ごと、法人ごとに法令の研修や事業に必要な研修を合同で実施することはあるかもしれないが、サービスごとの研修を事業所単位でやるのは時間の確保が難しい。
- ・これらの事業は、現場の人たちはみんな忙しいから、やれなくて話がなくなったという認識でいたが、ここに来てまたこの資料が出て、この表のどれをやりましょうか、というのは、リニューアル会議の話し合いは一体何だったのかと思ってしまう。

⇒これまできちんとした振り返り、評価がなされてなかったため、今回初めて高中低と書いたものが出て、事務局の評価があつたのではないかと思う。

⇒全部を一度にやるのが難しいというところから、今までの会議を踏まえ優先順位の案を出させていただき、それに関する意見を今いただいた。今回、昨年度の振り返りができてなかったというところで先に進むには、振り返ってこの条例に載っている施策が必要なのか、今の時代に合っているのか、優先度はどうなのか、というところでご意見いただければありがたいと思う。

- ・連携推進チームの無料相談窓口の設置について、相談窓口は、もうすでにあるのではないか。
- ・福祉の事業に限った話ではなく、一般の働く人の労務の相談ができる窓口労働基準監督署に相談コーナーは当然ある。
- ・窓口を作るのではなく、こういった仕事に就いた人にはこういった相談窓口があるといった情報を知らせていくといったことをすればいいと思う。
- ・福祉・介護サービス連絡協議会とか、新城福祉介護学会だが、これに代わるようなものが幾つもあるのではないか。
- ・円卓会議の時、グループワークで出たものをすべて拾い、逐条解説に落とし込んだため、こういう形で残ってきている。取捨選択していいという話であれば削っていったほうがいいと思う。
- ・福祉・介護サービス連絡協議会はなくてもいいと思う。既存のものでやって、機能の周知だけをすればいいと思う。
- ・ホイップネットワーク利用拡大について、実務者レベルで使っている。介護保険の人たちはホイップネットワークをチェックする習慣があるが、障害の分野はそこまでないが使っているところはもう使っている。
- ・「行事イベントに関する作り物を共通利用できる仕組みを作る」は、以前やめましょうという話になっている。
- ・就職前の研修、外国人向けの日本語研修に対する支援について、長い目で見ると外国人労働者は増えていくと考えるなら残すこととします。
- ・就職前研修、復職前研修について、どの分野に就職したいと思っているのかで研修の内容は違ってきてしまう。研修は現場サイドにお願いするのがいいと思う。
- ・興味がある仕事があれば、直接その事業所を訪ね、聞くものだと思う。いつどこでどんな場面で活用するイメージなのか読み取れない。
- ・ケアマネは仕事復帰する時は復職研修を受けなければいけない。そういう人は潜在的にかなりいる。有資格者を掘り起こすという意味では大事なことだと思う。
- ・勤めたい事業所があればそこと交渉すればいいが、費用を負担してくれる事業所があるならその事業所を選ぶこともあると思う。

- ・復職に関する相談窓口については、ハローワークに行って相談するか、関心を持った事業所に行けばいいと思う。
- ・就職（復職）研修について、飛騨市だと、ケアマネ資格取得者受験支援事業、ケアマネ新規雇用奨励金事業、就職奨励金事業、ケアマネの資格更新、キャリアアップ等研修支援事業があり、個人に対して補助金が出ている。
- ・連携推進チームでは、合同職員研修、事業所に出向いて出前研修と、階層別の研修が残った。
- ・魅力発信のところで、「ほのか」を活用した情報発信についてはこれまで2か月に1回連載している。「いいじゃん新城」での情報発信はない。
- ・「誰でも参加できるイベントで周知」について、何を周知するのか不明。
- ・写真展やフェア、フォーラムとあるが、このあたりは、フェスの中で全部やってきたと検証されている。
- ・人材を確保するためには若い方、世代が違う方を理解する必要がある。
- ・写真展でこんな施設があることを初めて知ったというような福祉に関わっていない人が福祉の仕事って素敵という人材が生まれることによって人材が確保できると感じる。
- ・今年度フェスをやめてみて、それなりに面白かったのではないかと感じた。フェスは場所さえ確保できればできると思うので続けていけたらいいと思う。いろんな関係者が参加すれば生まれるものもあるのではないかな。
- ・永年勤続表彰は、継続してこそ力になる、と思う。2年目は表彰される人が大幅に減った。これをどういうふうに増やしていくか大きな課題だと思う。我々が目指したいことは一体何かをもう1回考えて、そこから何をするかを考えていかないといけない。
- ・目指すところは、条例の前文にあると認識している。条例自体が理念条例だから、全文にあることがすべてだと思っている。
- ・フェスに来る方は業界の人や動員で来た人がほとんどで、個人や新たな社会人たちが全然来てなかった。あまり効果が得られなかったと思う。フェスではなく、福祉にかかわっていないところに魅力発信したら効果が得られるのではないかなと思う。
- ・社会福祉協議会は地域福祉の要だと思う。フェスみたいなものはむしろそういうところでやった方がいいと思う。別々にやってもきっと参加者は同じ顔ぶれになると思う。
- ・参加する方としても、毎月同じことをやっているという感じで、一緒にやってくれるとありがたいと思う。そこに既存のものがあれば、一緒にやっていく。不要なものがあれば削っていく。その考え方がいいと思う。
- ・年度途中から一緒にやっていくというのは難しい。一緒にやるのであれば、ものすごく早い段階から何のために何をどうするかということを持ってきて、お互いに年間計画と予算を組むときには一緒にやるという合意ができてないと実施は難しい。また、きっちり計画が固まってなくても、こんな風にと心づもりが分かっているれば相談や計画もできると思う。
- ・フェスをやった後の振り返りや評価も一切されてない。実施してどうだったか、反省しなくてはいけなかったのか、すごくよかったのでやり続けるためにこうしようといった話し合いもされずに2年続けてやったことにおかしいと感じる。同じことを繰り返すのはやめたほうがいいと思う。

- ・今はまだ1月だから来年度一緒にやれるところはやってみようという話是可以する。
- ・社協から今年の施策はこれがやりたい、と言ってくれると委員はみんな楽になる。
- ・フェスをやることが決まって、市が予算を取って、このくらいの規模でこういう風にしたいという考え方が分かれば一緒にやる相談ができる。
- ・フェスをやることが目的ではない。何のためにフェスをやるのか、その中身がはっきりしてないといけない。
- ・フェスの開催について、新城市は福祉が弱いイメージがあり、みんなで集まって何かをやろうということをずっと考えていた。市民の方に来ていただきアピールし、福祉のこと、従事者のことを分かってもらえるイベントになればいいと思い開催した。施策は従事者の方のアンケートから生の声を拾っていると思うので、辞めたり中止にするには理由が必要だと思う。助成制度があることなど紹介してやめるなりしたほうがいい。また、違う分野が一堂に会する研修は難しいと思う。研修ではなく、みんなが集まり遊ぶような機会でもいいのではないかなと思う。推進会議で政策提案できるようなそんな会議になるといい。研修に対する費用補助といったものを市が制度として作っていくような、そんな提案を推進会議として出していくといいと思う。
- ・人材不足についてひっ迫しており、特養、老健、グループホームでは従業員がいなくなっているため外国人を入れている。
- ・フェスがあった方がいいと思う委員は8名（挙手）
- ・反対意見ではないが、フェスは何のために今までやってきたのか分からないので、やったほうがいいか問われてもやった方がいいという意見は出ない。
- ・ふれあい広場に「はぐるまの会」が呼ばれるが、何の目的で呼ばれているのかよく分からない。社協に登録しているから呼ばれるのだろう。テーマがあればそれに沿ってできると思うが、逆に自分たちの活動のお披露目の場がないので年1回程度あってもいいと思う。
- ・フェスに福祉に興味がない合唱団を入れたが、初めて車椅子を見たとか、初めてこんな仕事している人がいることを知った子が何人かいた。また、菌床しいたけを目的に来た人など全然福祉と関係ない人を呼ぶ方法を考えるといい。こういった機会もあまりないのでフェスをやる意味もあるのではないかなと思う。ただ、スタッフにあまり無理がないような形で実施すべき。
- ・子供たちへのアプローチについては、どういう形でアプローチしていくのか話し合いが必要。
- ・フェスにこどもプレーパークで使っている巨大すべり台があってもいいと思う。そうすると福祉フェスなのかという疑問がわく。なんでもありということなら問題ないと思うが。

3 今年度実施する施策について

- （事務局）今年度は推進会議のあり方を検討する1年という認識でこれまで来た。取組としては広報に福祉のお仕事を掲載してきたが、今年度もあと2ヶ月半で何か施策を実施するのは時間的に厳しいと考えるが意見をいただきたい。
- ・社協の職員で昨年フェスで表彰された方がいた。その彼をリスペクトして働くといった雰囲気聞いたことがあったので、表彰ぐらいはやるべきと思ったが2ヶ月半でできるかなと思う。
 - ・人手不足の解消にフェスは効果があるのか、また、フェス開催のために1年を費やすというのはどうかと思う。

- ・最初のフェスでは、推進会議の委員が実行委員をやったが、推進会議のあり方としては違っている。この2年間は頑張って何とかできたけれども、このやり方はやり続けていけるやり方ではなかった。
- ・「キラリしんしろ福祉賞」をやることはとても大変だった。募集要項を決め、募集をかけて、応募していただいた方を審査会にかけて、審査委員さんに認めていただいてという流れだが、スケジュール的に2ヶ月半では無理。
- ・今年度は表彰を含め、他の施策の実施はなしということにする。

4 次回の開催について

(事務局) 次回の会議を3月と考えているが、日程調整に時間がかかるため以前のように第3木曜としたいがいかがか。

- ・今日、話し合ったことを整理し、事務局案を出さないと来年の話は始まらない。
- ・そういった話し合いをするなら3月では遅いと思う。2月の第3木曜日に1回やって、3月に来年度の人選をどうするか話し合っていないと4月にスタートができないのではないかなと思う。
- ・次回を2月20日6時から災害対策本部室2にて開催。
- ・推進会議を昼間、市役所がやっている時間の開催を検討していただけるとありがたい。
- ・次回の議題は、今日話し合ったことのまとめと令和7年度の委員について。

5 その他

- ・学習交流会の案内（奥三河九条の会 前澤）